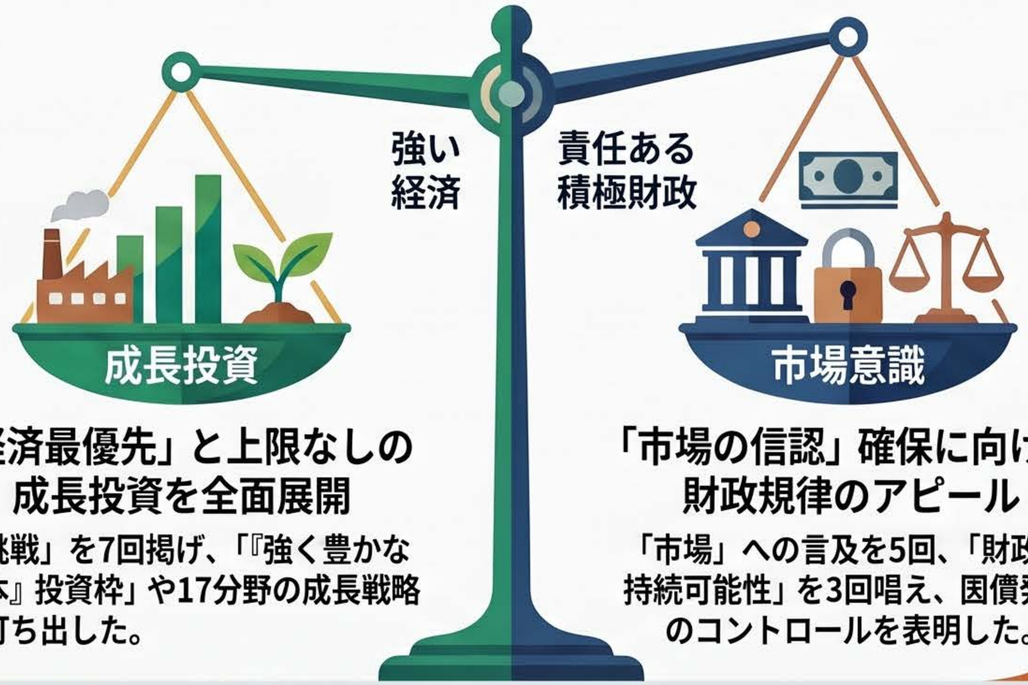
高市首相 所信表明演説の評価と今後の焦点

高市首相の所信表明演説（2026年10月5日）は、「強い経済」と「責任ある積極財政」を掲げ、市場の信認を意識した発信に注力した。
しかし、消費減税の具体的な財源欠落や参院少数（ねじれ）による法案成立の難航が懸念されており、評価は年末の予算策定まで持ち越されている。

演説の2大コアメッセージ（成長投資と市場意識）



「経済最優先」と上限なしの成長投資を全面展開

「挑戦」を7回掲げ、「『強く豊かな日本』投資枠」や17分野の成長戦略を打ち出した。

「市場の信認」確保に向けた財政規律のアピール

「市場」への言及を5回、「財政の持続可能性」を3回唱え、国債発行のコントロールを表明した。

顕在化した課題と今後の焦点

具体的財源の欠落と「教育・福祉ゼロ」の批判



公明・野党から「経産大臣の演説」「財源の具体性不足」との厳しい評価を受けた。

参院少数（ねじれ）における「消費税・支援金法案」の攻防



参院での修正協議（与野党合意）か、衆院での3分の2再可決かが焦点となる。





超長期金利の上昇と12月予算案での信認テスト

演説日に30年債利回りが過去最高（4.235%）を記録し、年末の国債計画に注目が集まる。



Gemini Notebook